

岩手県技術士会 部会活動報告

活動名	岩手・宮城内陸地震災害と復旧工事の見学会	(CPD 番号 21-8)
主催	森林・水産 部会	
日時	平成 21 年 7 月 4 日 (土) 8:30~17:00	
場所	花一関市市野々原地内・産女川地内	
参加人数等	12 人	

活動内容

1、見学会の概要 現地説明者 岩手南部森林管理署 治山課長 本城谷貴広 氏

1) 岩手・宮城内陸地震災害で被災した磐井川地区(市野々原)地すべり対策。

地震発生により、磐井川に直行するように地すべり移動(長さ 100m)が発生した。河道閉塞を引き起こした土砂ダムは降雨による決壊の恐れもあり緊急に対策工事を行う必要があった。そのため磐井川の中心を左岸に移動して付け替え河道(計画延長 400m)を実施する計画にある、平行して地すべり防止工事、民家の移転工事も急がれる状況にあった。



2) 同 産女川災害関連緊急治山工事。

当地域は須川岳国有林に位置し産女川上流に発生した大崩壊地の土砂流出に備え施工するものである。冬季の施工となることから資材運搬、工事期間の問題を考慮して構造は鋼製セルダムを採用し、工事期間の短縮を図ったものである。なお当「産女川」下流域は「民有林直轄治山工事」の施工地であり、既設の一部床固工に地盤沈下が見られるものの(災害査定で処置済み)概ね被災の状況は軽微な内容と思われた。



2、感想

この度の大災害に対して、先の研修会(6月18日)では国交省がリーダーシップをとった TEC-FORCE(テックホース)の行動が迅速であるほか、リモートセンシングと融合したテレビ映像・完成予想図など、メディアの活躍が中心話題であった。この度の見学会を通じて、それぞれ関係部署における協力と、良好な連携作業が行われて災害復興が進められたもので、残された工事も円滑に進められよう期待し見学会を終えた。